

「南鳥島における高レベル放射性廃棄物の地層処分の文献調査に関する  
村民説明会」概要（父島2回目）

1. 日 時：2026年3月14日（土）19：00～21：00
2. 場 所：小笠原村地域福祉センター1階多目的ホール
3. 参加者：90名
4. 説明者：  
【小笠原村】 渋谷村長  
【資源エネルギー庁】 放射性廃棄物対策課 横手課長、奈良課長補佐  
【原子力発電環境整備機構（NUMO）】 遠藤理事、地域交流部 豊野部長、  
広報部 富森専門部長、技術部 兵藤部長、吉村副部長
5. 質疑応答の概要（カッコ内は回答者）

1	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●空港建設のときに村民にアンケートを取ったように、村長判断の前には、どういう意見があって、どういう形で受けるのか受けないのかを把握したうえで、反対か賛成かを判断すべき大きな問題です。環境省の調査では、海鳥の貴重な繁殖地であることも分かっています。海鳥を観に、また、数少ない生きものがいる海へダイビングをしに来る観光客も多い中で、自然保護を呼びかけている島民がこういう開発を容認することは大きな影響があると思います。</li><li>●経産省は、小笠原村が文献調査を受け入れたら他の候補地へも呼び掛けるのですか。それとも小笠原村が受け入れなかった場合に、次の候補地を指名するのですか。</li></ul> <p>&lt;回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●既に特設デスク等を通じて村民の皆さまからご意見をいただいております。今回の説明会や配布させていただいているアンケートでも皆さまからのご意見をお伺いさせていただければと思っています。今後については、本日の説明会や母島での説明会におけるご意見も踏まえて総合的に判断してまいります。現時点では進め方や結論について明言は控えさせていただきます。（小笠原村）</li><li>●南鳥島での文献調査を受け入れていただけるか否かに関わらず、文献調査地区を拡大していくことは必要と考えています。今後も、全国の首長への個別訪問や理解活動を継続し、仮にご理解いただける可能性がある地域があれば、申入れを行っていきたいと考えています。（資源エネルギー庁）</li></ul>
---	--

## &lt;ご質問&gt;

- 村長の今の質問への回答は非常に曖昧です。島民に対して素直な気持ちを書いてもらうアンケートや島民の意見を聞く機会をつくるべきです。
- 南鳥島は面積が非常に狭く標高も低いしサンゴの島で弱い。また東京から2,000キロメートルも離れているのは非常にネガティブな要素です。そうしたところをなぜわざわざ選ぶのですか。小笠原村は観光に従事する人が大変多く、観光客は小笠原の自然を楽しむために、こんな遠くまで来てくれています。そこに核のゴミとは信じられません。風評被害は一度あったら終わりです。レアアースというお宝は持って行って核のゴミは捨てて行くというのは、ひどい話です。南鳥島は狭い・低い・脆い（サンゴ）・遠いのに、なぜ敢えて選ぶのか。他地域で地盤が安定した場所を選べばいいのではありませんか。

## &lt;回答&gt;

- 曖昧ということではなく、既に特設デスク等を通じて村民の皆さまからご意見を継続的にいただいており、今後も説明会やアンケートをはじめ、全国から寄せられるご意見も含め、総合的に判断する意向です。現段階においては、明言は控えさせていただきます。  
(小笠原村)
- 南鳥島における条件の厳しさは認識しており、仮に今後の調査により技術的成立性が見込みがなければ、処分地の候補から外れることとなります。ただ、現時点では地上施設の敷地を確保するための工夫の余地はあると考えています。  
また、津波に関しては防潮堤等による対策を検討しますが、先ほど述べたとおり、技術的成立性が見込みがないとなれば、候補地からは外れることとなります。一方、輸送距離が長いこと等に伴うコスト面については、技術的な評価の後に経済性についても評価および検討してまいります。(NUMO)
- 風評被害につきましては、地域の皆さまにご迷惑をおかけしないことを最優先課題として取り組んでまいります。調査期間中は放射性廃棄物を一切持ち込まないこと等、正確な情報を、地域の皆さまはもとより全国の方々に発信するよう努め、そのうえで、地域の皆さまにご迷惑をおかけするような事象を生じさせてしまった場合は、事業の進捗に応じて、誠心誠意対応させていただきます。  
(NUMO)

3	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <p>●南鳥島が1, 200キロメートル離れたところでも、村民が非常に不安を持っているのが伝わってきます。スウェーデンの最終処分場（フォルスマルク）は、首都ストックホルムからどのくらい離れているのですか。地元の受け止めはどうですか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>●ストックホルムからフォルスマルクまでは、バスで約2時間の距離です。当初は住民からの不安の声も多かったようですが、調査を通じて丁寧な対話や情報公開を重ね、世界中から研究者が集まる、誇れる町であるとの認識に変わっていったと聞いています。国としましても、同様に文献調査期間は村の皆さまとの対話を行う重要な期間と考えています。（資源エネルギー庁）</p>
---	---

4	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <p>●国内でガラス固化体が2万7千本相当発生しているのに対して、処分場は4万本を想定しているとのことですが、残り24年程度で満杯になるのではないですか。1か所では足りないのではありませんか。100年間の事業ということは、それ以降にもう1か所つく作らないといけないのではないですか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>●現在の原子力発電所の再稼働状況を踏まえると、ガラス固化体が発生する量は、概ね200～300本/年程度であり、ただちに4万本へ達することはないと考えています。また、建設地の状況に応じて地下施設の容量を拡大し4万本以上を処分することも検討可能と考えています。ただし、将来原子力の比率が大幅に増加するのであれば、追加で処分場を設けることも議論が必要になると思われます。いずれにしましても、現状では4万本以上のガラス固化体の処分について、1か所に対応可能と考えています。</p> <p>なお、100年間の事業というのは、「調査⇒施設の建設⇒ガラス固化体の搬入⇒埋め戻し」までの期間を示したものであり、原子力発電所を100年間稼働するという前提ではありません。（NUMO）</p> <p>●100年後の将来の電源構成は、原子力発電をどれくらい利用していくかを含め、その時点の状況や技術次第であるため、現時点で見通せないところもありますが、少なくとも既に原子力発電により発生した廃棄物と当面必要な原子力発電の利用に伴い発生する廃棄物は、現世代の責任として適切な処分が必要と考えています。引き続</p>
---	---

	き、地層処分に向けた取り組みを進めてまいります。(資源エネルギー庁)
--	------------------------------------

5	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文献調査の間には「机上調査に加えて地域対話」とありますが、具体的にどのような方法で地域の意見を聞くのですか。</li> <li>●次に進む際には「都道府県知事と市長村長の意見を聞く」とありますが、議員や島民の意見を反映させるにはどうしたらいいですか。</li> </ul> <p>&lt;回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域での対話活動につきましては、文献調査を実施させていただいている3つの自治体におきまして、地域の方々にご参加いただく「対話の場」を設置し、継続して開催しています。ここでは、中立的な立場のファシリテーターに進行等を担っていただき、地元有識者など20名程度の方にご参加いただき、複数のテーマで賛否に偏らないご議論をいただいています。</li> </ul> <p>なお、対話活動については、当該地域のニーズや地域事情等に応じて、具体的な取組みを決めてまいりました。今後、仮に小笠原村の中で対話活動をさせていただける場合についても、皆さまとご相談させていただき、検討してまいりたいと考えています。</p> <p>(NUMO)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各自治体における意思決定のやり方については、各自治体においてご判断されるものであり、議会手続きを経るなど、各自治体の合意形成の枠組みに委ねることとなります。国としましては、南鳥島の地層処分の実現可能性について様々なご意見がある中で、まずは対話活動を行わせていただくとともに、調査結果などの判断材料をお示しさせていただいた上で、ご判断をいただきたいと考えています。(資源エネルギー庁)</li> </ul>
---	--

6	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ガラス固化体を金属製の容器と粘土で覆えば、人間が扱えるレベルになるのですか。実際に搬入するとなったら、フォークリフトか何かで運搬するのですか。無人で行うのですか。</li> </ul> <p>&lt;回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●できたばかりのガラス固化体の表面の放射線量は非常に高いものですが、時間の経過と多重防護（オーバーパック＋緩衝材）をほどこすことにより、その影響は大幅に低減できます。それでも取扱いの際は遠隔操作を前提としており、人が直接接触することはありません。また、輸送には専用の輸送容器（鋼鉄製で100トン超）を用</li> </ul>
---	---

	<p>い、専用船および専用車両で行います。なお、これまで海外から返還されたガラス固化体を海上輸送した実績が18回あります。 (NUMO)</p>
--	--

7	<p>&lt;ご質問&gt;</p> <p>●魚や鳥など動植物に対する環境調査は文献調査で調べるのですか。それとも、どの段階で実施されるのですか。地上に建物や護岸をつくったりする必要もあり、総合的な環境評価をどの段階で行うのですか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>●環境に与える影響の調査および評価を段階的に行い、対応を検討します。地質を中心とした3段階の調査と並行して、環境に与える影響についても段階的に調査を実施してまいります。なお、文献調査では経済社会的観点からの検討の中で、自然環境に関する規制などを調べます。(NUMO)</p>
---	---

以上